

EXPO'70パビリオン

(大阪府吹田市)

EXPO'70パビリオンは万博記念公園にある1970年大阪万博の記念館だ。当時のパビリオン「鉄鋼館」を生かした建物で、展示の中心は「スペースシアター」。多数の球形スピーカーがつり下げられ、宇宙空間を思わせる円形劇場をガラス越しに見ることができる。階段に書かれた入館者数4位のパビリオンには意外な国名も。ロビーでは現在、2025年の大阪・関西万博につながる3Dや仮想現実(VR)を使った体験型の企画展が開かれている。(松浦弘昌)



「NIKKEI 関西」
インスタグラムでも
<https://www.instagram.com/nikkeikansai/>

KANSAI Timeline

■阪大大学院時代に、国際電気通信基礎技術研究所(ATR、京都府精華町)で今日まで続く研究活動を始める。けいはんな学研都市にあって奈良県に近いATRでは、多くの著名な研究者とつながることができ、強力な人脉を培うことができた。1994年には京都大学大学院に助教授と

■ロボット工学の第一人者で、大阪大学栄誉教授の石黒浩さん(58)は滋賀県で生まれ、関西の2府4県全てに関わってきた。関西の歴史や文化、自然を愛し、最先端のロボットやアンドロイドの研究、開発に取り組んでいる。

滋賀県高島市で生まれ、高校まで過ごした。自然が豊かで、子供の頃は山でマツタケを探り、クワガタを捕まるなど、生命と触れる機会に恵まれた。風景画など絵を描くのが好きで、画家になりたいと思ったこともある。

小学5年生のとき、親が先生に「人の気持ちを考えなさい」と叱られた。これをきっかけに、人とは何か、気持ちとは何か、考えるとはどういふことかと自問するようになった。人間とは何かを追究するために、アンドロイドをつくる今日につながっている。

大学は山梨大学の工学部計算機科学科に進んだ。コンピューターに関心をもっていた

ダメだという意味で、私にとっては人間とは何かを考え抜くことが基本問題だ。

■阪大大学院時代に、国際電気通信基礎技術研究所(ATR、京都府精華町)で今日まで続く研究活動を始める。

けいはんな学研都市にあつて奈良県に近いATRでは、

多くの著名な研究者とつなが

りができ、強力な人脉を培う

ことができた。1994年には

京都大学大学院に助教授と

濃い人間関係 大阪の魅力

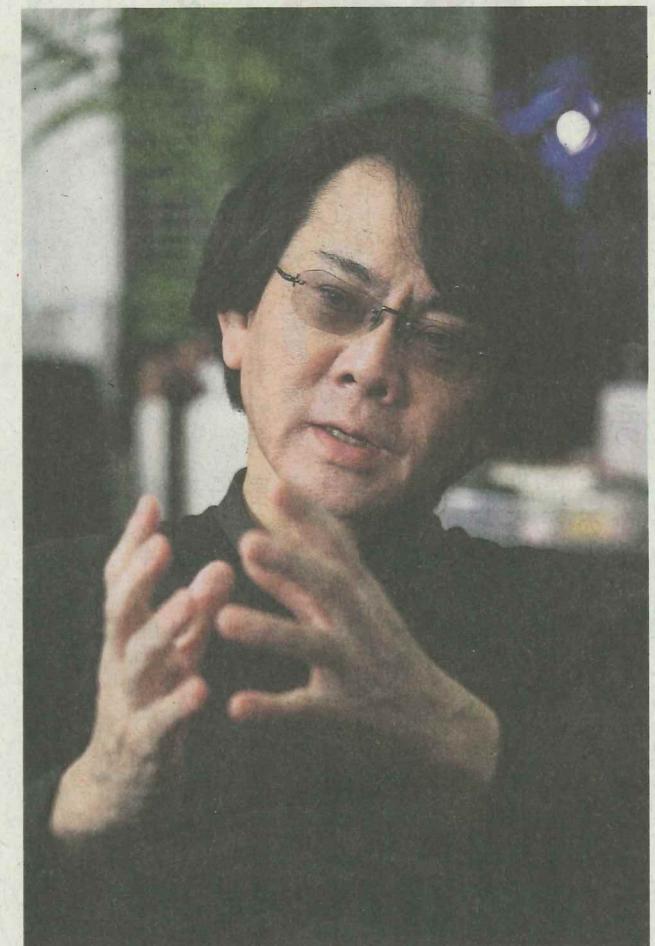
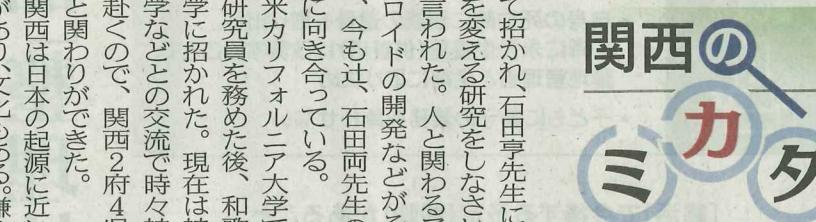


人間とは何かを追究するために、自分に似せたアンドロイドも開発した

「基本問題を考えなさい」と言われた。上つ面の研究ではダメだという意味で、私にとって人はとは何かを考え抜くことが基本問題だ。

ロボ研究、連携自在に

2025年の国際博覧会(大阪・関西万博)ではテクノロジーのデューサーを務める。1970年の大阪万博と違い、遺伝子操作や義手・義足の技術進歩などで人間が人間をデザインできるようになつた。生態系全体を考えた環境対策もそうだが、50年前は神様に任せていたことに人間が責任を持たなければならぬ。どんな未来が望ましいか、人によって価値観は異なるので、多様な未来の選択肢を示すのが25年万博の使命になる。(聞き手は塩田宏之)



運慶が今時代に生きていれば絶対に話が合うと思う。

■講演などで週に1回程度は東京に行くが、住みたいとは思わないという。

関西には山や海、湖などがあって地形が起伏に富んでいる。奈良の盆地や大阪の海、琵琶湖のほとりといったように。東京はただ広い関東平野があって地形に変化が乏しい。人も多すぎて東京に住んでも落ち着かない気がする。

現在の研究拠点である阪大はオープンで、産学連携が自由にできる。大阪は東京に比べて人口が少なく、地元に根付いた人がいて人間関係が濃い。研究テーマごとに連携するドロイドの開発などがそれでも、今もさ、石田西先生の課題に向か合っている。

米カリフォルニア大学で客員研究員を務めた後、和歌山大学に招かれた。現在は神戸大学に招かれた。今は神戸大学などとの交流で時々神戸に赴くので、関西2府4県全ても関わりができる。

関西は日本の起源に近い歴史があり、文化もある。鎌倉時代の彫刻家、運慶をテーマにしたNHKの番組に出演したことがあるが、彼は自分の中の基本問題を探求するために仏像を彫っており、私がアンドロイドをつくるのと、ほとんど同じマインドを感じた。

大阪で創造して東京で花開くパターンがもつと増えれば、大阪の役割がはつきりする。今後はリモートワークを可能にするインターネットをうまく利用し、街の魅力を高める必要があるだろう。

大阪・関西万博ではテクノロジーのデューサーを務める。1970年の大阪万博と違い、遺伝子操作や義手・義足の技術進歩などで人間が人間をデザインできるようになつた。生態系全体を考えた環

境対策もそうだが、50年前は神様に任せていたことに人間が責任を持たなければならぬ。

どんな未来が望ましいか、人によって価値観は異なるので、多様な未来の選択肢を示すのが25年万博の使命になる。

(聞き手は塩田宏之)

いしごる・ひろし 1963年滋賀県生まれ。91年大阪大学大学院・基礎工学研究科・博士課程修了。現在は大阪大学栄誉教授、ATR石黒浩特別研究室客員所長(ATRフェロー)。著書に「アンドロイドは人間になれるか」など。

石黒 浩さん 大阪大栄誉教授